

読者の皆様へ

大変お待たせしました、thomas & partners NEWSの第2号をお送りいたします。ドイツ代表はW杯後も絶好調で、5試合で5勝、得失点比23対1の成績を残しています。これはヨアヒム・レーブ新監督のおかげなのでしょうか？我々は直接本人に伺って見ました。前号のミハエル・バラック選手に続いて、今月はレーブ監督がインタビューに応じ、自らの仕事の重点や日本サッカーについての感想などについて語ってくれました。当インタビューの質問は、日本のテレビ局の方に選んで頂いたものです。ドイツの選手や監督に関する質問や、インタビューの要望などがおありの場合は、info@thomas-japan-consult.comまでお問合せ下さい。

また、代表だけではなく、ブンデスリーガも例年以上の盛り上がりを見せています。7試合日を経て、上位9チームが3ポイント以内にひしめく大混戦が続いています。そんな中、今週末は首位ブレーメンが2位バイエルンを本拠地へ迎える好カードが行われます。試合結果は、他の試合も含めて**弊社ウェブサイト**から確認していただけます。

チャンピオンズリーグでは今日、SV ウェルダー・レーメンがレフスキー・ソフィアと、FCバイエルン・ミュンヘンがスポルティング・リスボンと対戦します。これらの試合結果も上記リンクからご覧下さい。

ドイツサッカーに関する最新情報をお楽しみ下さい。

2006年10月18日

ラファエル・トーマス 並びに
thomas & partners スタッフ一同

— 第2号・目次 —

ドイツ代表のW杯を描く映画 ヴォルトマン監督の新作ドキュメンタリー	2
レーブ監督・ 単独インタビュー 「目標は欧州制覇」	2
ドイツ代表ニュース 代表チームの最新情報	4
ブンデスリーガ最新情報 注目の試合結果、順位表、 欧州CLなど	5
華麗なるスポーツの世界 サッカーだけではない、ddp 通信社の真の実力とは？	7
弊社について thomas & partners とは	7



ドイツ代表のW杯を描く映画 ヴォルトマン監督の新作ドキュメンタリー

映画「Deutschland. Ein Sommermärchen（ドイツ、夏のおとぎ話）」がドイツ全国の映画館をにぎわしている。映画監督のゼーケ・ヴォルトマン氏は この作品で、クローゼ、バラック等ドイツイレブンと共に過ごしたW杯の夏を振り返っている。他の記者やカメラマンとは違い、ヴォルトマンはロッカールーム、チームの宿舎やバス、そして練習グラウンドへの立ち入りが許されており、試合中はビデオカメラを手に控え選手と共にベンチ入りして撮影する姿は、世界中のマスコミ関係者から羨望の眼差しを浴びた。



「Deutschland. Ein Sommermärchen（ドイツ、夏のおとぎ話）」の映画ポスター
提供=ddp 通信

1959年生まれのヴォルトマンは、ドイツ国内では非常に有名である。ドイツ代表が初優勝を飾った1954年のW杯決勝を描く「Das Wunder von Bern（ベルンの奇跡）」は 2003年、大成功を収めている。戦後ドイツの復興の象徴とまで言われた出来事の映画化に感動したクリンスマン監督以下ドイツ代表チームは、ヴォルトマン氏が大会中とその前の準備期間中、チームと同行することを認めた。

その仕事の集大成は10月5日に封切りされ、記録的な人気を呼んでいる。第一週から国内ランキング一位に食い込み、10月16日までに200万人以上の観客を動員している。

作品は、大会中の4週間、平均年齢の若いドイツチームを支配した情熱を感慨深く描いている。特に面白いのは、間近で見る“シュバイニー”と“ポルディー”（シュバインシュタイガーとポドルスキー）の名コンビである。グラウンド上でも息がぴったりな二人は、作品中のオフ時間でも一緒にやんちゃ坊主振りを発揮している。

しかし、意外なことも記録されている。チームが見せた自信あふれるプレーと勝利への執念の秘密は、クリンスマン監督によるロッカールームでの情熱的なスピーチが原因とされているが、どうやら違うらしい。あるシーンには、チームを大声で叱咤激励するクリンスマン監督をよそに、退屈そうにドアにもたれるシュナイダーや、眠たげにあくびをするポドルスキーが映っている。

◆ 「Deutschland. Ein Sommermärchen（ドイツ、夏のおとぎ話）」
作品公式サイト（予告編あり）: <http://www.deutschlandeinsommermaerchen.kinowelt.de/>
作品に関する詳細情報や、日本における和訳版の上映については info@thomas-japan-consult.com までお気軽にお問合せ下さい。

ヨアヒム・レーブ監督 単独インタビュー 「目標は欧州制覇」

トーマス・アンド・パートナーズ（以下 t&p）
8月1日以来、代表監督として指揮を執られているわけですが、選手との接し方や思想など、前任のクリンスマン氏と違う点は何でしょう？



ヨアヒム・レーブ 監督になっても、仕事の仕方はクリンスマン前監督のアシスタントを勤めていた頃と変わりありません。戦術と選手個々の必要に応じた練習法に重点を置いています。われわれの思想も代わっていません。チームは、二年前に決めた進路を進むことになります。それは、積極的でアグレッシブ、攻撃的なプレイスタイルで相手の不意をつき、プレッシャーをかけることです。それに必要なのは、戦術に忠実であることと運動能力です。過去二年間で、チームは大きく進歩しましたが、まだまだ成長の余地はあります



t&p 日本代表も、W杯後に監督が交代しています。日本のオシム新監督はチームをほとんど丸ごと入れ替え、主に若手の選手を使っています。若いチームを新たに作り上げるのと、息の合っている、W杯で成功を収めたチームを引き継ぐのと、どちらが難しいと思いますか？

ヨアヒム・レーブ 監督としては、どちらも魅力的です。失敗に終わった2004年の欧州選手権の後、我々は若くて将来性のある選手を代表に召集しました。常に勉強熱心で、楽しみとモチベーションを持って「2006年W杯」というプロジェクトに挑戦する彼らの情熱は、我々の仕事にとっても有利なものでした。そんな彼らも国際舞台で貴重な経験を積み、我々の要求を理解した上で自らさらに高い水準を求めています。また、世間の評価水準もW杯前と比べて高くなっています。

t&p 監督は前任のクリンスマン氏と違って、現役選手としての代表経験がありません。これは監督として有利ですか、それとも不利ですか？

ヨアヒム・レーブ 確かに、代表でプレーすることは非常に興味深い視点を知ることになるでしょう。でも、私は監督としても常に新たな視点を求め、トルコやオーストリアでも仕事をしてきました。自分の能力と可能性を見極めて、独自の道を見つけなければいけません。だから、比較的早くに指導者としての道を視野に入れて、必要な専門知識を身につけてきました。自分の仕事をよく知り、専門知識もある限り、周りからの信頼もついてきます。その場合、代表としてプレーしたかどうかは関係ありません。ところで、私がU21代表で四度プレーしていることは忘れられがちですね。

t&p 日本代表のオシム新監督はほとんど、25歳以下の若い選手しか代表に召集していません。彼らが2010年のW杯の時点に選手としてのピークに達していることを期待しているからです。同様に年齢の若いチームを率いる監督として、計画は2010年まで及んでいますか？それとも、目標はまず2008年の欧州選手権ですか？

ヨアヒム・レーブ 我々の焦点は2008年にあります。我々の予選グループは非常にハードで、順調なスタートを切っていても、勝ち進むには常に全力を出さなければなりません。でも、目標は欧州制覇と言い切るだけの自身はあります。

ドイツ代表ニュース

レーブ監督5連勝

8月1日の就任以来、ドイツ代表のヨアヒム・レーブ新監督は無傷で連勝を続けている。五戦五勝、23得点でわずか1失点は、ドイツサッカー史上初の好成績である。

11日の欧州選手権予選、対スロバキア戦では前半13分にポドルスキーのゴールで先制に成功。さらに主将バラック（前半25分）とシュバインシュタイガー（前半36分）のゴールで追加点をあげた後、後半13分にスロバキアのバルガが追撃点を入れるが、後半27分、ポドルスキーが予選通算7点目となるゴールを決めて勝負を決した。



「レベルが違った。チームは落ち着いてチャンスをものにした」とバラック主将。しかし満足はしない「アルゼンチンやブラジル、イタリアはこんなものではない。追い付くにはまだ成長しなければならない」。

◆レーブ監督下のドイツ代表の成績:

08月16日	ドイツ	—	スウェーデン	3:0
09月02日	ドイツ	—	アイルランド	1:0
09月06日	サンマリノ	—	ドイツ	0:13
10月07日	ドイツ	—	グルジア	2:0
10月11日	スロバキア	—	ドイツ	1:4

強豪のイタリアやフランス、イングランドが苦戦を続ける中、ドイツは2008年の欧州選手権（スイス・オーストリア共同開催）に向けて大きく前進している。2006年最終戦となる11月15日のキプロス戦（ニコシア）勝てば、試合の無いチェコから予選D組首位の座を奪うことができる。

◆2008年欧州選手権予選D組順位表

	試合	得失点	勝ち点
チェコ	4	13:2	10
ドイツ	3	18:1	9
スロバキア	4	12:9	6
ウェールズ	3	5:8	3
キプロス	3	7:11	3
アイルランド	3	3:7	1
サンマリノ	2	0:20	0

2006年10月18日現在

サッカーだけでは足りない - 代表選手の社会勉強



代表GKレーマンは「ゴールマナー」も良好
写真=ddp通信

サッカーが上手いだけでは、ドイツ代表の監督やスタッフは満足しない。クリンスマン前監督はW杯を前に、サッカー漬けの選手たちの視野を広げる試みを始めた。イランでは王宮を見学し、スイスでは時計工房でワークショップを受けた。選手達が自由時間をトランプやテレビゲームで過ごす姿はもう過去のもの。登山家のステファン・グロバッツやドイツ・マッキンジー社の元社長、ヘルベルト・ヘンツラーなど、さまざまな分野の成功者を招いてはその成功の秘訣を訊いている。

11日のスロバキア戦を前にして、チームはマナーの講習を受けた。専門家によって、公のイベントや食事のマナーを伝授された。36歳のGKレーマンでさえ、「食事相手を待たせないように、早く食べなければいけないとは知らなかった」と勉強になったようだ。

2006年欧州最優秀選手候補を発表

W杯を経て、ドイツ代表の選手に対する国際的な注目度も高まっている。16日、パリで発表された2006年度欧州最優秀選手候補選手50人に、ドイツ・イレブンメンバーが6人も含まれている。選出されたのはミハエル・バラック（FCチェルシー）、イエンス・レーマン（FCアーセナル）、ミロスラフ・クローゼ（SVヴェルダー・ブレーメン）、ルーカス・ポドルスキー、バステアン・シュバインシュタイガー、フィリップ・ラーム（いずれもFCバイエルン・ミュンヘン）。昨年度、候補選手として選出されたドイツ人はバラック一人であった。2006年度欧州最優秀選手は11月末、仏誌“フランス・フットボール”によって発表される。



昨年は14位に終わったバラック。今年は上位が期待できるか？
写真=ddp通信

ブンデスリーガ 最新情報

混戦の予感

ブンデスリーガは今季、例年以上の混戦となりそうだ。第7試合日終了時の順位表を見ると、首位ブレーメン以下、FCバイエルン、シャルケ04と強豪が勝ち点13でトップに並ぶが、これはリーグの力関係を現すとは言い難い。勝ち点10で現在9位につけるヘルタ・ベルリンでさえ、わずかに一勝で首位を奪い通れる位置にいるからだ。逆に、今季チャンピオンズリーグにも参戦しているハンブルガーSVは、最下位VfLボーフム（勝ち点4）にわずかに一点差と、意外にも大苦戦を演じている。

	チーム	試合	得失差	勝点
1	W. ブレーメン	7	9	13
2	FCバイエルン	7	4	13
3	FCシャルケ04	7	2	13
4	A. アーヘン	7	3	12
5	ボルシアMG	7	0	12
6	ニュルンベルク	7	4	11
7	B. ドルトムント	7	1	11
8	シュトゥットガルト	7	0	11
9	ヘルタ・ベルリン	7	4	10
10	E. フランクフルト	7	2	9
11	DSC ビーレフェルト	7	0	8
12	レヴァークーゼン	7	-1	8
13	E. コットブス	7	-2	8
14	FSV マインツ05	7	-3	7
15	ヴォルフスブルク	7	-4	6
16	ハノーファー96	7	-8	6
17	ハンブルガーSV	7	-2	5
18	VfLボーフム	7	-9	4

第7節注目の試合結果

<FCバイエルン・ミュンヘンー ヘルタ BSC ベルリン> 4:2 (前半2:0)

昨季王者FCバイエルンは本拠地ミュンヘンのアリアンツ・アリーナを埋めた6万9千人の観衆の前で、首都ベルリンのヘルタBSCを4:2下した。新天地バイエルンでのリーグ戦初得点を決めたFWルーカス・ポドルスキー（21）は、ケルンからの移籍の際に多くの批判を浴びていただけに、喜びもひとしおだった。新チームでもこれまで出場機会の少なかったポドルスキーについて、マスコミではスランプ説もささやかれていた。



また、11日の代表対スロバキア戦後にも、ポドルスキーに対して苦言を呈す声が代表チーム内に聞かれた。主将バラックは「批判的な自己分析」を求め、代表FWとしてコンビを組むクローゼは「年上の選手のアドバイスを受け入れれば、ものすごいキャリアが待っている」と話した。しかし、あまり助けを期待してはいけない。

移籍後初得点を挙げたポドルスキー（下）を祝福するシュバインシュタイガー
写真=ddp 通信

「（自分は）彼のパパじゃないもの」とクローゼ。ポドルスキー本人はこれらの批判を「自分はサッカーが楽しい。誰がなんと言おうと、まるで気にならない」と受け流した。

FCバイエルン監督のフェリックス・マガットはこの試合、就任75戦目で50勝目（勝率66.6%）をあげた。

<VfL ボーフムー SV ヴェルダー・ブレーメン> 0:6 (前半0:1)

SV ヴェルダー・ブレーメンは敵地ボーフムで6:0の大勝利を収め、首位に立った。これで最下位に沈んだVfLボーフムにとっては、ホームゲーム市場最高点差の敗戦となった。ブレーメンの新司令塔ディエゴ（21）は一得点を決めるなど活躍したが、二試合連続で無得点に終わったエース、ミロスラフ・クローゼは「ちょっとイライラしている。今日はゴールを決めたかった」と打ち明けた。しかし、昨季得点王の自信は揺るがない「次はガツンと決める」。



ブレーメン4点目のゴールを決めた司令塔ディエゴ（ddp）

「次」といえば10月21日、FCバイエルンを本拠地ブレーメンに迎えての頂上決戦である。ブレーメンのGKヴィーゼは「この調子ならバイエルン相手にも5点はいける」と自信たっぷり。それを受けて、バイエルンのMFファンボンメルは「（ヴィーゼ相手に）6点入れれば、5点取られてもかまわない」と火花を散らした。

UEFA チャンピオンズリーグ

◆結果速報 10月17日

FC ポルト (ポルトガル)	4 : 1 (2 : 0)	ハンブルガーSV
ロペス(前半14分)		
ゴンザレス(前半48分)		トロホフスキー(後半44分)
ポスティエガ(後半24分)		
ロペス(後半36分)		

◆UEFA チャンピオンズリーグ第3試合日 ドイツ各チームの試合予定

10月18日
10月18日

ス ポルティンク・リスボン(ポルトガル) - FCバイエルン・ミュンヘン
SVヴェルダー・ブレーメン - レフスキー・ソフィア(ブルガリア)

試合結果は[こちら](#)から

華麗なるスポーツの世界

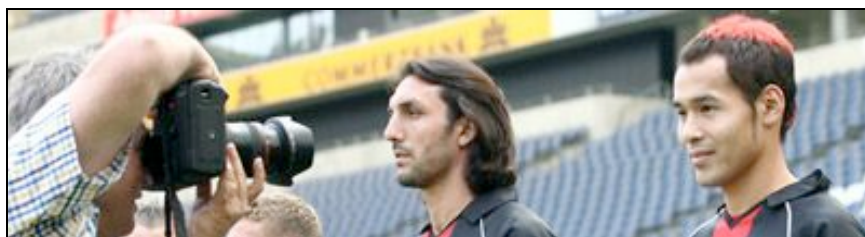
サッカーだけではなく、ddp通信社の真の実力とは？



ドイツでサッカーといえば、疑うことなく人気ナンバー1のスポーツです。W杯が行われた4週間は、それを反映するかのように国内全体が異常なほどの熱気に包まれました。そんな熱に浮かされることなく、我々通信社はブンデスリーガの活躍と全試合の様子を記事と写真で迅速に、そして正確に報じていきます。勝者と敗者を画像に残すのはもちろんのことですが、意外と見落としがちな周辺部での出来事、その他の名珍場面もしっかりキャッチ。ブンデスリーガだけではなく、先週の対スロバキア戦にて4対1の好成績を収めたドイツ代表も当然ながら取材し、記録に収めました。

たとえドイツが他に類を見ない「サッカー王国」でも、ddp通信社が提供する画像は同ジャンルではありません。たとえば今年のスポーツ界におけるもう一つのハイライト、アーヘンで8月に行われた国際乗馬大会や、つい最近、9月にメンヘン・グラートバッハで開催されたホッケー・ワールドカップにも、我々のトップ取材陣が駆けつけ、一部始終を記録しました。また、F1の分野においても、レースの開催地にある国内支局より最新の画像を提供していますし、オリンピックのような国際レベルのスポーツ大会・イベント画像も配信しているのです。

貴社がお探しの画像、例えばひとりひとりの選手や各大会における画像も、ddp通信社のデータベースならきっと見つかるはず。ご質問やその他、特別なご要望にも、経験豊富な社員が丁寧に対応いたします。



ddp通信はもちろん、毎週ブンデスリーガからも最新の情報をお届けします。

トーマス&パートナーズはこの度、ddp通信社のパートナーとなりました。日本のお客様は弊社を通じ、日本語のサービスで画像を注文することができます。トーマス&パートナーズは、お探しの画像の検索、リサーチ、アドバイスや手続きを、ddp本社から直接購入する場合と同条件で請け負います。皆さんからのお問い合わせ、お待ちしております。

本社をベルリンに置き活動するddp通信社は、ドイツ国内に20の支局を持ち、125人の記者・通信員および250人以上の契約社員を従え、政治、経済、文化、スポーツなどの分野で、日夜活発な取材活動を続けています。記事は350以上の取引先に配信され、新聞や雑誌に活用されるほか、在外公館、各団体、研究所、企業などにも提供されています。

弊社について

ベルリンのトーマス&パートナーズでは、日独両方のスタッフが調査やコーディネート、アポ取りなどの取材支援業務をはじめ、政治・スポーツ・文化など各分野にわたる報道や制作を、テレビ・新聞・雑誌などの各種メディアから承っております。また、通訳やカメラ・音声・運転手などのスタッフも、必要に応じて斡旋いたします。これまでNHK、フジテレビ、朝日新聞などに弊社のサービスをご利用いただいております。

詳細情報は www.thomas-and-partners.com から。



thomas & partners
トーマス・アンド・パートナーズ
Bleibtreustr. 6
10623 Berlin

Tel: +49-(0) 30. 3759 1751
Fax: +49-(0) 30. 3759 1752

info@thomas-japan-consult.com
www.thomas-and-partners.com